



京印季報

Kyoinkiho

2022 SPRING



Special Contents:

春季特別企画

「第1回スポGOMI大会in西院」
開催報告



2022 SPRING

1	巻頭言／専務理事 爲國光俊
2	春季特別企画
	「第1回スポGOMI大会in西院」開催報告
4	令和3年度近畿地区印刷協議会例会開催 (Web会議)
5	「京都ビジネス交流フェア2022」に ブース出展
6	令和3年度京都府印刷企業の賃金実態調査
8	労務対策セミナー開催
8	教育研修セミナー開催
9	委員会だより／教育委員会・組織委員会 共済委員会
10	支部だより／中支部・東山支部
11	会合だより／京都府印刷関連団体協議会
12	京都青年印刷人月曜会
12	京都印刷協和会
13	関連団体だより
13	よしみ散歩～印刷会館周辺地域のご紹介～
14	組合創始130周年記念事業のご案内
15	新型コロナウイルス感染症に関する 事業者向け支援制度について
17	印刷会館利用状況
17	組合日誌
17	事務局からのお知らせ
18	2月・3月 定例理事会開催概要
18	組合員異動
18	パートナーシップ会員異動
18	訃報
18	表紙作画者紹介
18	編集後記



今年もきれいに桜が咲きました。やはり、桜と言えば日本の心、と思う方は多いでしょう。桜はとても美しい花ですが、それ以上に美しい花は他にもあるように思います。しかし、なぜ桜なのか？ 桜には美しさだけでなく精神美があるようです。春の季節の情景や出会い、旅立ちのシーンと重なって、桜花爛漫の満開の美しさとともに一瞬で散るその儚さに日本人は自らの心を投影し、美や文化を感じるのではないのでしょうか。

私たちが生業としている印刷にも文化が宿っています。産業革命の中で、印刷は多くの発明によって発展し、その発信力の強さで情報の爆発的拡大を全世界にもたらしました。印刷技術によって「情報や思いをつたえ、つなげる」という役割を担うことができたからだと思いますが、いかがでしょうか。

その文化の一端を担う印刷業界は、今、デジタルの波によって、岐路に立たされています。京印工組でも新たな組合員獲得のために勧誘活動を進め、その告知方法としてプロモーション映像を制作しました。なぜ印刷物でなく映像？ という疑問もありますが、時代の流れを客観視することも大切でしょう。2021年の広告費は、インターネット広告が前年比21%増となり、新聞、テレビ、雑誌、ラジオをあわせたマスメディアの広告総額を超えたと発表されました。そのなかでもデジタル化の象徴でもある映像が好調だったとのこと。

「つたえる」ための手段として最新の映像を使うことはインパクトがあります。と同時に、私たちの業界で長き年月の中で培った歴史や文化を隔々まで伝えていくためには、印刷物に勝るものはありません。京印工組創始130周年記念誌がまもなく発行されます。是非、手に取り、机に置き、印刷の歴史と文化を感じていただきたいと思います。



京都府印刷工業組合
専務理事 爲國 光俊



<https://kyoinko.jp/>



第1回

スポGOMI大会
in 西院
開催レポート



参加者一同

開会の挨拶を述べる
笹原理事長

3月13日(日)午前10時より印刷会館に於いて、「第1回スポGOMI大会in西院」を12チーム・58名の参加により開催致しました。

「スポGOMI」は、日本スポGOMI連盟代表である馬見塚氏の「ランニング中のゴミの拾い方を工夫してトレーニングに活かそう」という発想の転換から誕生しました。社会奉仕活動を「競技」に変換させた日本発祥の新しいスポーツであり、国連の広報センターよりSDGsの啓発活動事例として紹介されています。

同僚や同業者仲間と競いながら清掃活動に取り組むことで、「同じ目標へ立ち向かう」、「力を合わせる」、「達成感・爽快感」などスポーツならではの価値観や結束力が得られるとともに、社会貢献意識が高まり、エリア周辺コミュニティとのリアルな交流や社内での5S活動への意識向上にも繋がります。

栄えある第1回大会の優勝・京都府知事表彰受賞チームは有限会社寺平美術平版Aチームの皆様でした。おめでとうございます！また、準優勝・理事長表彰受賞チームは京都青年印刷人月曜会Aチームの皆様、第3位・組織委員長表彰受賞チームは共栄印刷紙業株式会社チームの皆様でした。

春号の特別企画では本事業の実施レポートをご紹介します。ご一読の上、次の大会には是非ともご参加をお願い致します。

始まりは令和3年4月7日。組合の予算会議において、組織委員会の事業計画の一つとして「スポGOMI大会」を立案したことでした。執行部からは『それは何？』の質問。正直に申し上げて、当時は提案した私自身、スポGOMI大会を見たことも参加したこともありませんでした。ただ、SDGs検索に抽出され、世界的に広がっている、誰でも参加できるイベントであることだけは理解していました。

そこで日本スポGOMI連盟代表の馬見塚氏へ直接連絡し『組合のイベントとして開催したいと思います。ご協力お願いできますか？』とお伝えしたところ、馬見塚氏より『スポGOMIは組合のSDGsへの取り組みになりますし、何より組合員様同士のコミュニケーションを深める施策として最適だと思います。これまでも衛星放送協会様やグループ企業内での大会、映画会社対抗戦など、同じような目的でスポGOMIが開催され毎年継続されています。是非ご検討下さい』との回答でした。組織委員会の事業活動の中に「組合の周知」があります。そこへ地域貢献まで出来るとなれば実施しない理由はないとの思いで開催することと致しました。

その後、昨年10月に河原町のユニクロさんが開催されるとの情報を受け、こっそり確認にも行きました。また、馬見塚代表とは、スポGOMIの事をよく知るために相当数のメールのやり取り、Zoomでの打ち合わせを行なうとともに、組織委員会の開催をお知らせしたところ、京都まで足を運んで出席して下さいました。

なお、開催日が蔓延防止等重点措置の期間と重なり、また当初は参加人数が少なかったことから、2月の理事会では延期も含めて検討されましたが、執行部の皆様、青年部の月曜会の方々のご協力もあり、開催できる人数まで揃いました。



担当役員、委員による打合せ



開会式



競技中の皆様



優勝 南寺平美術平版Aチームの皆様



準優勝 京都青年印刷人月曜会Aチームの皆様



3位 共栄印刷紙業(株)チームの皆様

いよいよ開催当日の3月13日(日)、予報では21度まで気温が上がるとの事。「雨降ったらどうしよう、急な不参加で人数不足になったらどうしよう」等、参加者が揃うまで不安が尽きませんでした。予定通り全員が参加され、印刷会館の駐車場に皆様が整列されたときには感無量でした。

月曜会の木寄氏の進行により、初めに理事長の挨拶、続いて山下月曜会会長の選手宣誓とルール説明があり、瀧本顧問の「ごみ拾いはスポーツだ」の掛け声でスタートしました。瀧本顧問からは、「エンゼルスの大谷選手はゴミを拾っているのではなく運を拾っている」とのお話を頂きました。確かに彼は、昔から落ちていくごみを躊躇なく拾ってきた様で、花巻東高校の恩師から「ゴミは人が落とした運。ゴミを拾うことで運を拾うのだ。そして自分自身にツキを呼ぶ。そういう発想をしない」との教えがあったそうです。私自身も、努力と運があれば夢は叶うのだと信じていきたいと思えます。

競技時間は1時間。過ごしやすい時期ではあるものの競技は広範囲に渡ります。歩いてゴミを拾う作業中、万一にも熱中症や事故が起きないかと、競技を了え、参加者の皆様に戻るまでは運営側としては心配でした。

幸い事故もなく、予定通り1時間で競技者が帰ってこられ計量まで進みましたところ、処理できない理由から粗大ゴミ、燃えないゴミは拾ってこないというルール設定だったのですが、フライパンや自転車のかごなど、規定外のゴミを持って帰ってくる競技者が多数いました。「これはルール外です」と伝えると、「良いですよ、ただゴミである以上見て見ぬ振りができなかつたです」とのコメントを頂きました。これがスポGOMI効果なんだと感じました。また、小学1年生の子に「おっちゃん、来年もごみ拾いしてや、僕、来年優勝するで」と言われ

感動しました、延期にするか、決行するかで散々悩み、執行部へ私の思いを押し付け、無理やり決行させて頂きましたが、開催して良かった、正解だったと思っています。

閉会式の藤井副理事長の閉会挨拶により、スポGOMI大会は滞りなく了えることができました。スポGOMI大会にはゴミ拾いという貢献も当然ありますが、活動を通して「一つの目標に向かって全員が一つになれる」という効果もあります。これからの時代は大切にしていきたいと思います。今後は関連団体や各支部、また地域の方や学校等にも協力をお願いするなどスポGOMI大会の規模拡大を図り、そして長く続けていきたいと思っています。

コロナ禍の状況を鑑みると、来季も組合イベントが予定通り開催出来るかどうか不確定ですが、組合事業の対象は、組合員事業所様はもとより、従業員の皆様まで含まれると思っています。従業員一人ひとりまで組合の情報が行き届き、皆が意味のある参加が出来る、そんな組合にしていきたいと考えています。

最後に馬見塚代表にこう言われました。「印刷組合の皆様のお熱い気持ちに感動しました。やはり『情熱』。これをいつまでも持ち続けていきましょう」と。

(文責・編集委員会)



収集されたゴミ